

「香川の保存木」概況調査

Survey of Trees Designated for Preservation in Kagawa

伊藤 英夫 白井 康子
Hideo ITO Yasuko SHIRAI

要 旨

香川県では「香川県における樹木の保存に関する要綱」に基づき、「香川の保存木」を指定しており、平成19年10月末現在131本が指定されている。これらの指定木について概況調査を実施した。衰退度V(枯死寸前)と判定されたものはなかったが、衰退度IV(著しく不良)と判定されたものが16本(12.2%)あった。

I はじめに

香川県では良好な生活環境の保全と郷土の景観を維持するため、「香川県における樹木の保存に関する要綱」¹⁾に基づき、「香川の保存木」^{2) 3) 4)}を指定している。香川の保存木指定基準は表1に示したとおりである。香川の保存木制度が発足30年になるのを機会に、現在指定されている131本(平成19年10月末現在)について概況調査を実施したので報告する。

判定は原則として伊藤、白井の2名が行い、小豆地区の35(福田のアコウ、以下、保存木番号は太ゴシックで表示する)、144(唐櫃のシンパク)の2本については蓮池将道、武川秀樹両氏(いずれも小豆総合事務所森林整備室(当時))に判定を依頼した。また、衰退が認められる場合、原因について推測の範囲で記載した。

現地で使用した調査票を図1に示す。

なお、図鑑類は牧野新日本植物図鑑等^{6) 7)}を参考にした。

II 方法

1 調査日

平成19年9月3日～11月28日

2 調査対象

指定木131本(平成19年10月末現在、指定木の詳細は県HP³⁾掲載)すべてを調査対象とした。

3 調査方法

今回の概況調査では、地上部のみの樹勢・症状等を「最新・樹木医の手引き」に掲載されている「地上の衰退度判定表」⁵⁾(表2)に従い、目視によって概況を確認した。

図1 保存木概況調査票

保存木概況調査票				調査者
指定番号	指定年月日			調査年月日
名称		所有者(管理者)		
所在地		推定樹齢		
樹高	胸高周囲	枝張り	東西	南北
環境の概況	立地場所	周囲の状況		
	目録番号	日照不良の原因	湖風の影響	
	地 形	土地の傾斜		
	樹元・周囲の植生	傾斜方向		
	樹元近くの工作物			
	その他			
樹木の状況	枯れ枝の状況			
	空洞・剥皮の状況			
	腐朽の状況			
	病虫害被害の状況			
その他	剪定・枝打ちの状況			
	動物の生息			
	遺失・植物			
	その他			
地上部の衰退度判定票				
樹勢	樹形	枝の伸長量		
幹上・枝先端の枯損	下枝先端の枯損	大枝・幹の損傷		
枝葉(芽)の密度	葉(芽)の大きさ	樹皮の状況		
胴吹き・ヒコバエ		合 計		
		評価区分		
所見				

表1 香川の保存木指定基準

(「香川県における樹木の保存に関する要綱」別記1)

- 1 樹木 次のいずれかに該当し、健全な生育をしているものであること。
 - (1) 高性のもで地表からの高さが10メートル以上で地表から1.5メートルの高さにおける幹の周囲が1.5メートル以上であること。ただし、株立ちした樹木は、地表からの高さが3メートル以上で地表から1.5メートルの高さにおける幹の周囲の和が2.5メートル以上であること。
 - (2) 低性のもで枝葉の広がり占める面積が10平方メートル以上で樹齢が推定70年以上であること。
 - (3) 樹齢が推定70年以上であること。
 - (4) 珍しさにおいて特にすぐれているものであること。
- 2 樹林 次のいずれかに該当し、その集団に属する樹木が健全で、かつ、その集団の樹容が美観上特にすぐれていること。
 - (1) その集団の存する土地の面積が500平方メートル以上であること。
 - (2) 並木をなす樹木の集団で、その集団が同一種類の樹木10本以上をもって構成されているものであること。

表2 地上の衰退度判定票 (堀, 1998) 「最新・樹木医の手引き」p498 より引用

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状態を示し、被害が全く見られない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状態が劣悪で、回復の見込みが少ない	ほとんど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度に短小ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに成長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが、あまり目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端が欠損
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが、あまり目立たない	かなり多い。切断が目立つ	著しく多い。大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが、回復している	かなり目立つ	著しく目立つ。大きく切断されている	大枝・幹の上半分が欠けている
7 枝葉(芽)の密度	枝と葉の密度のバランスがとれている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯枝が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉(芽)の大きさ	葉がすべて十分な大きさ	ところどころに小さい葉がある	全体にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなくそれも小さい
9 樹皮の状態	傷などほとんどなし	穿孔・傷が少しあるが、あまり目立たない	樹皮に明らかに異常がある	大きな空洞、剥がれがある	樹皮の大部分が枯死
10 胴吹き・ひこばえ	枝葉量が多く、胴吹きもひこばえもある	枝葉量が多いが胴吹きあるいはひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き・ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹き・ひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく、胴吹き・ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値合計 ÷ 評価項目数 =

衰退度区分	I	II	III	IV	V	I: 0~0.8 未満 II: 0.8~1.6 未満 III: 1.6~2.4 未満		IV: 2.4~3.2 未満 V: 3.2~4.0	
	良	やや不良	不良	著しく不良	枯死寸前				

III 結果

1 指定数の推移

平成 19 年 10 月末までに累計 170 本が保存木に指定されているが、このうち 39 本が枯死などにより指定解除に至っている。指定数の推移を図2に示す。解除理由の内訳を図3に示す。

指定解除理由は「枯死・枯損」25 件(64.1%)、「樹勢の衰え」5 件(12.8%)、「被災(台風等)」5 件(12.8%)などで、枯死・枯損及び樹勢の衰えが解除理由の 3/4 を占めている。また、指定解除数のうち、15 本(38.5%)はマツ(クロマツ, ゴヨウマツ, ダイオウショウ)で、マツが指定解除に至った理由は、29(高根の一本松)の県天然記念物指定を除くと枯死または枯損であり、指定解除全体に占めるマツ枯れの割合(35.9%)は極めて高い。

2 衰退度判定結果

調査結果集計表を表3-1, 3-2に示す。

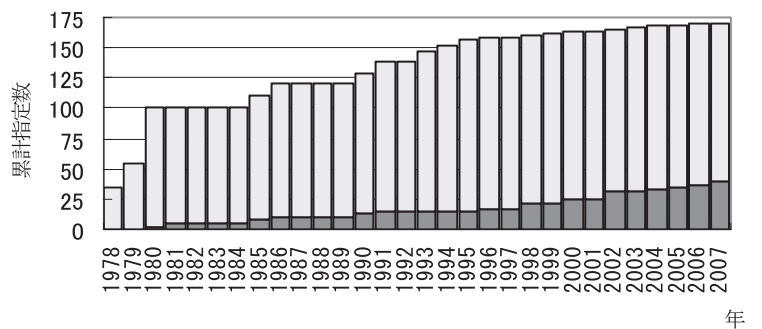


図2 指定数の推移

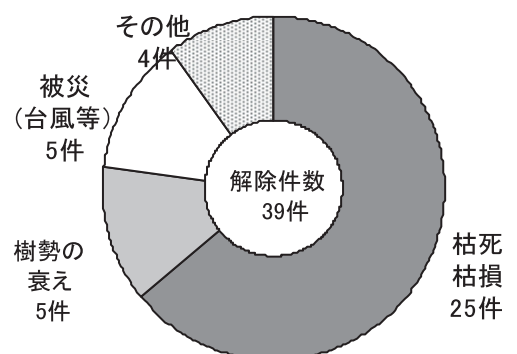


図3 解除理由の内訳

表3-1 調査結果集計表

指定番号	樹種	指定年	衰退度	評価区分	樹勢	樹形	枝の伸長量	梢や上枝先端の枯損	下枝先端の枯損	大枝・幹の損傷	枝葉(芽)の密度	葉(芽)の大きさ	樹皮の状態	胴吹き・ヒコバエ
2	クスノキ	1978	1.8	Ⅲ	2	2	2	3	1	2	2	2	1	1
5	ナギ	1978	2.4	Ⅳ	2	3	2	3	2	4	2	3	3	—
6	イチヨウ	1978	1.4	Ⅱ	1	2	1	0	1	2	1	2	3	1
7	ムクノキ	1978	2.4	Ⅳ	2	3	2	2	2	4	2	2	3	—
8	クスノキ	1978	1.9	Ⅲ	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2
9	スギ	1978	1.4	Ⅱ	2	1	1	1	1	2	2	2	1	—
10	クスノキ	1978	2.1	Ⅲ	2	1	2	2	2	3	2	2	3	—
11	スギ	1978	2.5	Ⅳ	3	3	2	1	2	4	3	2	3	—
15	ツバキ(ワビスケ)	1978	0.9	Ⅱ	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1
16	ユーカリジュ	1978	2.3	Ⅲ	2	2	2	2	2	3	3	2	3	2
17	モミ	1978	0.9	Ⅱ	1	1	1	0	1	0	2	2	0	—
18	イチヨウ	1978	1.6	Ⅲ	2	2	2	1	1	3	2	1	1	1
19	イチヨウ	1978	1.5	Ⅱ	1	1	1	1	1	2	2	1	3	2
22	ネズミサン	1978	2.0	Ⅲ	2	2	2	1	3	2	2	2	2	—
23	ナシ	1978	2.1	Ⅲ	2	2	2	1	2	3	2	2	3	2
24	タカオモミジ(イロハカエデ)	1978	1.3	Ⅱ	1	3	1	0	1	1	2	2	1	—
25	ツガ	1978	1.4	Ⅱ	2	2	1	1	2	1	1	2	1	—
26	トチノキ	1978	2.9	Ⅳ	3	4	2	2	4	3	3	2	3	—
30	ツブラジイ	1978	2.0	Ⅲ	2	2	2	1	2	3	1	2	3	2
33	サザンカ	1978	1.5	Ⅱ	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
35	アコウ	1978	0.2	Ⅰ	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
37	モミ	1979	1.4	Ⅱ	2	1	1	1	2	1	2	2	1	1
38	クロガネモチ	1979	1.0	Ⅱ	1	1	0	1	2	1	0	0	3	1
39	ニッケイ	1979	1.4	Ⅱ	1	2	1	1	2	1	2	2	1	1
40	ケンボナン	1979	1.8	Ⅲ	1	2	2	1	2	2	2	2	2	2
41	モッコク	1979	0.4	Ⅰ	1	0	0	0	1	1	0	0	1	—
43	ヒノキ	1979	1.3	Ⅱ	1	2	1	1	2	1	1	1	2	—
44	アベマキ	1979	1.2	Ⅱ	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1
45	ヒノキ(スイリュウヒバ)	1979	1.3	Ⅱ	1	1	1	1	2	1	2	2	1	—
46	ホオノキ	1979	2.3	Ⅲ	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2
47	カツラ	1979	1.0	Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
49	ケヤキ	1979	1.9	Ⅲ	2	2	2	1	1	3	2	2	2	2
50	センダン	1979	2.0	Ⅲ	2	2	2	1	2	2	2	2	3	2
51	クロガネモチ	1979	1.5	Ⅱ	1	1	1	1	1	1	2	2	3	2
52	シラカシ	1979	1.3	Ⅱ	1	1	1	1	2	2	1	1	2	1
54	ムクノキ	1979	2.0	Ⅲ	2	3	2	1	1	2	2	2	3	2
55	カゴノキ	1979	1.3	Ⅱ	1	2	1	1	2	1	2	1	1	—
56	ヌマスギ(ラクウショウ)	1980	0.7	Ⅰ	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1
57	クスノキ	1980	1.8	Ⅲ	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2
59	イチヨウ	1980	0.6	Ⅰ	1	0	0	0	1	1	1	1	0	1
60	アラカシ	1980	2.4	Ⅳ	2	2	2	3	3	3	2	2	3	2
61	アラカシ	1980	2.0	Ⅲ	2	2	2	2	1	2	2	2	3	2
62	ユーカリジュ	1980	2.9	Ⅳ	3	3	2	3	3	4	3	3	2	3
63	イヌマキ	1980	1.8	Ⅲ	2	2	2	1	2	2	2	2	2	—
64	クスノキ	1980	1.7	Ⅲ	1	3	2	1	2	2	1	1	3	1
65	クロガネモチ	1980	1.5	Ⅱ	1	1	2	1	1	1	2	2	2	2
66	バクチノキ	1980	1.9	Ⅲ	2	2	2	1	2	2	2	2	2	—
67	クスノキ	1980	2.2	Ⅲ	2	2	2	2	2	3	2	2	3	2
68	クスノキ	1980	1.5	Ⅱ	1	1	2	2	1	1	2	2	1	2
69	クスノキ	1980	0.7	Ⅰ	1	1	1	0	1	1	1	0	0	—
70	ボダイジュ	1980	1.1	Ⅱ	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1
72	クロガネモチ	1980	1.4	Ⅱ	1	2	2	1	1	2	1	1	2	—
73	サルズベリ	1980	1.9	Ⅲ	1	2	2	1	2	2	2	2	3	2
74	クロガネモチ	1980	1.2	Ⅱ	0	1	1	1	1	2	1	1	3	1
75	ソテツ	1980	0.3	Ⅰ	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0
80	ソテツ	1980	1.0	Ⅱ	1	1	2	1	1	0	1	2	1	2
82	イブキ	1980	1.7	Ⅲ	2	2	1	1	2	2	2	2	2	—
83	クスノキ	1980	1.2	Ⅱ	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1
84	ホルトノキ	1980	1.9	Ⅲ	2	2	1	1	2	2	2	2	3	—
85	クロガネモチ	1980	2.2	Ⅲ	2	2	2	2	2	3	2	2	3	—
86	タブノキ	1980	1.9	Ⅲ	2	2	2	2	1	2	2	2	2	—
87	ムクノキ	1980	2.6	Ⅳ	2	3	3	3	3	3	2	2	2	—
89	ラカンマキ	1980	2.1	Ⅲ	2	2	2	2	2	3	2	2	2	—
92	タブノキ	1980	2.0	Ⅲ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	—
93	イチヨウ	1980	1.8	Ⅲ	2	2	2	1	1	2	2	2	2	—
96	ムクノキ	1980	0.9	Ⅱ	1	1	1	0	2	1	0	1	1	—
97	クスノキ	1980	1.3	Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2
98	ヒイラギモクセイ	1980	1.4	Ⅱ	1	1	1	1	1	2	2	2	1	2
100	イブキ	1980	0.9	Ⅱ	1	1	1	0	1	1	1	1	1	—
101	コウヤマキ	1980	2.4	Ⅳ	2	2	2	3	3	2	3	3	2	2
102	モッコク	1985	1.9	Ⅲ	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2
104	オリーブ	1985	1.0	Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
105	ヤマモモ	1985	1.9	Ⅲ	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2
106	イチヨウ	1985	2.2	Ⅲ	2	1	2	2	2	2	3	3	3	—
107	フジ	1985	1.4	Ⅱ	1	1	1	1	1	2	1	2	3	1
108	ハリギリ	1985	2.0	Ⅲ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

表3-2 調査結果集計表

指定番号	樹種	指定年	衰退度	評価区分	樹勢	樹形	枝の伸長量	梢や上枝先端の枯損	下枝先端の枯損	大枝・幹の損傷	枝葉(芽)の密度	葉(芽)の大きさ	樹皮の状態	胴吹き・ヒコバエ
109	モミ	1985	1.3	II	1	1	1	1	2	2	1	2	1	—
110	エノキ	1985	1.2	II	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1
111	クスノキ	1985	1.0	II	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
112	ヒノキ	1986	1.7	III	2	2	2	1	1	2	2	2	2	—
113	チシャノキ	1986	1.0	II	1	2	0	0	0	2	1	1	3	1
114	サザンカ	1986	2.2	III	2	3	2	3	2	3	3	2	2	—
115	ムクノキ	1986	1.7	III	2	2	2	1	2	2	1	2	2	—
116	ヤマモモ	1986	1.5	II	1	1	2	1	2	1	1	2	2	2
118	フジ	1986	1.4	II	1	1	1	1	1	2	1	1	3	2
119	コナラ	1986	1.2	II	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1
120	ヤマザクラ	1986	1.9	III	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2
121	ツブラジイ	1986	0.3	I	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0
122	クスノキ	1990	1.0	II	1	0	1	1	1	1	1	1	1	2
123	クスノキ	1990	2.0	III	2	1	2	1	2	2	3	3	2	2
124	ホルトノキ	1990	1.8	III	1	3	1	0	1	3	2	2	3	2
125	クロガネモチ	1990	2.1	III	2	3	2	1	2	3	3	2	3	—
128	ヤマモモ	1990	2.0	III	2	1	1	1	2	3	3	2	3	2
129	イブキ(シンパク)	1990	2.1	III	2	2	2	2	3	3	2	2	3	—
130	イチョウ	1991	2.0	III	2	2	1	1	1	3	2	3	3	2
131	スギ	1991	1.7	III	2	2	1	1	1	2	2	2	3	—
132	ウラジロガシ	1991	1.5	II	2	1	1	1	1	2	1	1	3	2
133	ケヤキ	1991	1.2	II	1	1	1	1	1	2	1	1	1	2
134	ヒノキ	1991	1.5	II	1	1	1	2	2	2	2	2	1	—
135	クロマツ	1991	1.2	II	1	2	1	1	1	1	1	1	2	—
136	タカオモミジ(イロハカエデ)	1991	1.8	III	2	1	2	2	2	2	2	2	2	—
137	タブノキ	1991	2.4	IV	2	4	2	2	2	3	2	2	3	2
138	クロマツ	1991	1.0	II	1	1	1	1	1	1	1	1	1	—
139	クスノキ	1993	1.3	II	1	1	2	1	1	1	2	2	1	1
140	ウメ(シダレウメ)	1993	2.4	IV	2	2	2	2	1	3	3	3	2	4
141	アキニレ	1993	1.3	II	1	2	1	1	2	2	1	1	1	1
142	ムクノキ	1993	2.2	III	2	3	2	1	2	3	2	2	3	2
143	ムクノキ	1993	2.8	IV	3	3	2	3	3	3	3	2	4	—
144	イブキ(シンパク)	1993	0.0	I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
145	標本林	1993	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
148	ツバキ	1994	2.0	III	2	1	2	2	2	2	2	2	3	2
150	ウバメガシ	1994	2.0	III	2	2	2	2	2	1	3	2	2	2
151	ムクノキ	1994	2.8	IV	3	3	2	3	3	3	3	3	3	2
152	ヤマザクラ	1994	3.0	IV	3	3	2	3	3	4	3	3	4	2
153	エノキ	1995	1.2	II	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
154	クスノキ	1995	2.6	IV	3	2	3	3	3	2	3	3	1	3
155	ムクノキ	1995	2.7	IV	3	3	2	2	3	3	2	2	4	3
156	ケヤキ	1995	2.0	III	2	3	1	1	2	2	2	2	3	2
158	イブキ(シンパク)	1996	2.6	IV	2	2	2	4	2	4	2	2	3	—
159	モクセイ(ギンモクセイ)	1997	1.6	III	2	2	2	0	1	2	2	1	3	1
160	アケボノスギ(メタセコイヤ)	1998	0.6	I	1	1	1	0	1	0	0	1	0	—
161	ムクノキ	1999	1.2	II	1	1	1	1	1	2	2	1	1	—
162	クスノキ	2000	1.2	II	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1
163	コルクガシ	2000	0.9	II	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1
164	ツバキ	2000	0.9	II	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
165	カキ	2002	1.5	II	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
166	スギ	2003	1.4	II	2	1	2	1	1	1	2	2	1	—
167	マツ	2003	0.4	I	1	0	1	0	0	1	0	0	1	—
168	クスノキ	2004	1.5	II	1	1	2	2	1	2	2	1	1	2
169	クスノキ	2005	1.4	II	2	1	1	1	1	2	2	1	2	—
170	モミ	2006	1.5	II	2	1	2	2	2	1	2	2	1	0

総数 130(131)

指定番号 145: 香川大学農学部標本林を除く

各指定木の衰退度をもとに衰退度区分をあてはめた結果、衰退度V(枯死寸前)と判定されたものはなかったが、衰退度IV(著しく不良)と判定されたものが16本(12.2%)あった。全体ではII(やや不良)及びIII(不良)と判定されたもので8割を占め、I(良)と判定されたものは少なかった。衰退度区分をあてはめた結果を表4、図4に、衰退度の分布を図5に示す。また、樹種別一覧を表5に、IV(著しく不良)と判定された保存木の衰退理由を表6に示す。

表4 衰退度区分

衰退度区分		
I	(良)	10本
II	(やや不良)	56本
III	(不良)	48本
IV	(著しく不良)	16本
V	(枯死寸前)	0本
計		130本

※ 指定番号 145 を除く

表5 樹種別一覧

科名	属名	樹種	現指定数 (本)	衰退度 (本)				解除数 (本)	解除理由 (本)		累計 (本)
				I	II	III	IV		枯死・衰退	その他	
ソテツ科	ソテツ属	ソテツ	2	1	1			0			2
イチョウ科	イチョウ属	イチョウ	7	1	2	4		0			7
マキ科	マキ属	ラカンマキ	1			1		0			1
マキ科	マキ属	イヌマキ	1			1		0			1
マキ科	マキ属	ナギ	1				1	0			1
マツ科	ツガ属	ツガ	1		1			0			1
マツ科	モミ属	モミ	4		4			0			4
マツ科	マツ属	クロマツ(アカマツ, マツ含む)	3	1	2			13	10	3	16
マツ科	マツ属	ダイオウシヨウ	0					1	1		1
マツ科	マツ属	ヒメコマツ(ゴヨウマツ)	0					1	1		1
スギ科	コウヤマキ属	コウヤマキ	1				1	0			1
スギ科	スギ属	スギ	4		2	1	1	0			4
マツ科	メタセコイヤ属	アケボノスギ(メタセコイヤ)	1	1				0			1
スギ科	ラクウショウ属	ヌマスギ(ラクウショウ)	1	1				0			1
ヒノキ科	ヒノキ属	ヒノキ	4		3	1		0			4
ヒノキ科	ネズミサシ属	ネズミサシ	1			1		0			1
ヒノキ科	ネズミサシ属	イブキ(シンバク)	5	1	1	2	1	0			5
ヤマモモ科	ヤマモモ属	ヤマモモ	3		1	2		0			3
ブナ科	コナラ属	コナラ	1		1			0			1
ブナ科	コナラ属	クヌギ	0					1		1	1
ブナ科	コナラ属	アベマキ	1		1			2	2		3
ブナ科	コナラ属	ウバメガシ	1			1		0			1
ブナ科	コナラ属	アラカシ	2			1	1	1	1		3
ブナ科	コナラ属	シラカシ	1		1			0			1
ブナ科	コナラ属	ツクバネガシ	0					1		1	1
ブナ科	コナラ属	ウラジロガシ	1		1			0			1
ブナ科	コナラ属	コルクガシ	1		1			0			1
ブナ科	シイ属	ツブラジイ	2	1		1		0			2
ブナ科	マテバシイ属	シリブカガシ	0					1	1		1
ニレ科	ニレ属	アキニレ	1		1			2	1	1	3
ニレ科	ムクノキ属	ムクノキ	10		2	3	5	1	1		11
ニレ科	ケヤキ属	ケヤキ	3		1	2		1		1	4
ニレ科	エノキ属	エノキ	2		2			1	1		3
クワ科	イチジク属	アコウ	1	1				0			1
ヤドリギ科	ヤドリギ属	ヤドリギ	0					1	1		1
モクレン科	ホオノキ属	ホオノキ	1			1		0			1
カツラ科	カツラ属	カツラ	1		1			0			1
クスノキ科	クスノキ属	クスノキ	18	1	9	7	1	0			18
クスノキ科	クスノキ属	ニッケイ	1		1			0			1
クスノキ科	タブノキ属	タブノキ	3			2	1	0			3
クスノキ科	カゴノキ属	カゴノキ	1		1			0			1
マンサク科	イスノキ属	イスノキ	0					1	1		1
バラ科	ナシ属	ナシ	1			1		1	1		2
バラ科	サクラ属	ウメ(シダレウメ)	1				1	0			1
バラ科	サクラ属	ヒガンザクラ	0					1	1		1
バラ科	サクラ属	ヤマザクラ	2			1	1	0			2
バラ科	サクラ属	バクチノキ	1			1		0			1
マメ科	フジ属	フジ	2		2			2	2		4
センダン科	センダン属	センダン	1			1		1		1	2
モチノキ科	モチノキ属	クロガネモチ	7		5	2		1	1		8
カエデ科	カエデ属	タカオモミジ(イロハカエデ)	2		1	1		0			2
カエデ科	カエデ属	トウカエデ	0					1	1		1
トチノキ科	トチノキ属	トチノキ	1				1	0			1
クロウメモドキ科	ケンボナシ属	ケンボナシ	1			1		0			1
ホルトノキ科	ホルトノキ属	ホルトノキ	2			2		1	1		3
シナノキ科	シナノキ属	ボダイジュ	1		1			0			1
ツバキ科	ツバキ属	ツバキ	3		2	1		0			3
ツバキ科	ツバキ属	サザンカ	2		1	1		0			2
ツバキ科	モッコク属	モッコク	2	1		1		0			2
フトモモ科	ユーカリ属	ユーカリジュ	2			1	1	3	2	1	5
ミソハギ科	サルスベリ属	サルスベリ	1			1		0			1
ウコギ科	ハリギリ属	ハリギリ	1			1		0			1
カキノキ科	カキ属	カキ	1		1			0			1
モクセイ科	モクセイ属	モクセイ(ギンモクセイ)	1			1		0			1
モクセイ科	モクセイ属	ヒイラギモクセイ	1		1			0			1
モクセイ科	オリーブ属	オリーブ	1		1			0			1
ムラサキ科	チシャノキ属	チシャノキ	1		1			0			1
			130	10	56	48	16	39	30	9	169

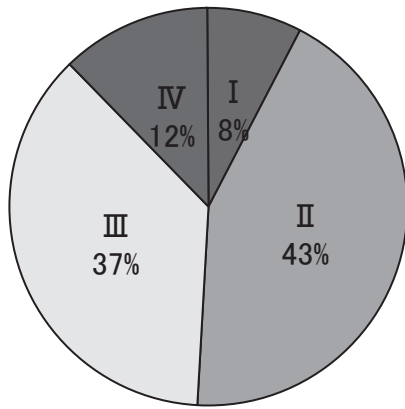


図4 衰退度区分

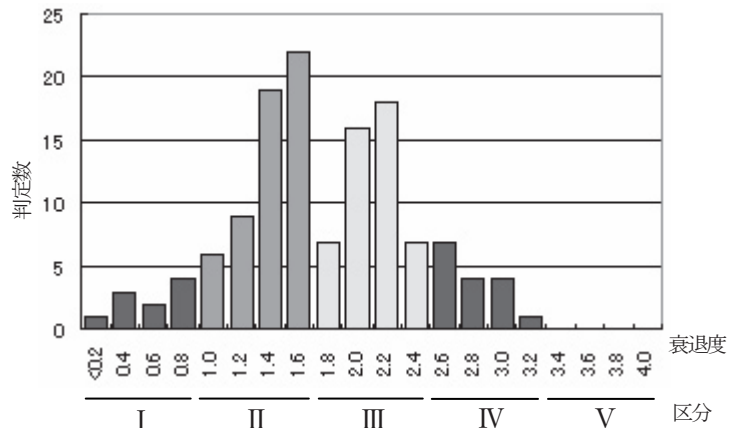


図5 衰退度の分布

表6 IV(著しく不良)と判定された保存木の衰退理由

(複数回答)	
主要枝幹を暦年にわたって強度に伐った	8 件
根元への盛土、石積、車両の侵入など	4 件
風雪・落雷など自然災害	3 件
病害虫被害	2 件
モウソウチクなどの侵入	2 件
その他	3 件

IV まとめ

今回の調査では短期間に全指定木の概況確認を行うことに主眼を置き、少人数で地上部の目視のみで判定を行っているため、客観性に欠ける可能性があるが、全体の傾向を把握することは出来たと考える。

指定木はいずれも、老木・巨木であり、風雪に耐え長年の歴史を刻んでおり、無傷で旺盛な成長は期待できない。多くの保存木は社寺等にあり、信仰心の希薄化、生活様式の変化等により生育環境が悪化しているものがみられる。主な衰退の原因は、集会所等建設や交通障害等の事情で行った太枝を強度の剪定、樹冠下への車両の進入・駐車場化である。また、個人宅にあるものでも、高齢化、無人化により放置されているものも少なからずあり、このような保存木を今後どのように管理していくのか、課題に思われた。

今回の調査では、衰退度IV(著しく不良)と判定されたものが16本あった。これらについては、早急に詳細な調査を実施し、加療の必要なものについては所要の処置がとられることが望まれる。

指定木のなかには、同一樹種の指定数が少ないものも数多く含まれており、これらのうち、III(不良)、IV(著しく不良)と判定されたものについては、計画的に詳細調査を実施するとともに、定期的な巡回が必要である。

謝辞

今回の調査では、蓮池将道、武川秀樹両氏の協力により全指定木のデータを揃えることが可能となった。また、「香川の保存木」の担当課であるみどり保全課のご好意により報告書として取りまとめることが出来た。関係の方々に改めて、お礼を申し上げる。

文献

- 1) 香川県における樹木の保存に関する要綱(昭和 53 年施行)
- 2) 香川県緑化推進委員会: 香川の保存木, 香川県(1976)
- 3) 香川県 HP 香川の保存木 <http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/shizen/guidemap/tree/index.htm>
- 4) 香川の自然ガイドブック 香川の自然保護マップ 第11版, 香川県(1999)
- 5) 最新・樹木医の手引き 改訂版, (財)日本緑化センター(2003)
- 6) 牧野富太郎: 牧野新日本植物図鑑 第28版, 図鑑の北隆館(1974)
- 7) 最新園芸大辞典編集委員会: 最新園芸大辞典 第6版, 誠文堂新光社(1979)